

- 2・3面 【特集】東日本大震災から10年 現在の復興状況について  
 岩手県支部、宮城県支部、福島県支部
- 2面 女性の採用・活用についての調査 女性活躍推進部会長 酒井 一江
- 3面 【学会の目・眼・芽】コロナ禍と造園界  
 (公社)日本造園学会理事・会長 京都大学大学院地球環境学 柴田 昌三
- 4面 【ふるさと自慢】高知の魅力詰め込んだビールと伝統の碁石茶、土佐の大抜茶  
 高知県 田村 嘉平 (有)高知ガーデン土木
- 【緑 滴】草木染のおもしろさ  
 岐阜県支部 前田 菜々子 (株)岐阜造園

## 『グランマのゆりかご』

### 女性活躍推進部会が冊子「第3弾」を発行 会員企業の新米パパ、ママ6人を取材

部会冊子の第3弾。「グランマのゆりかご」を発刊し、会員のみなさまのお手許に届いたかと思えます。この冊子を作成するにあたり、まずは取材中断のお詫びがあります。

先輩パパ、ママ等の公募により、15人のエントリーをいただきました。そして、昨年1月から張り切って取材を始めましたが、コロナ禍となり、3月10日を最後に6名までで取材は中断しています。

落ち着きましたらまだ取材をしていない皆様への取材を再開し、バージョンアップして参りますので、エントリーした方は忘れないでください。その時は、子育てのアイデアも増えているでしょうから、色々教えてください。

さて、出産、子育ては言うまでもなく、御夫婦にとって大きなライフイベントです。働く若い夫婦、いやいや今が産み時と心ひそかに意を決したキャリアウーマンもいらっしゃるかもしれません。

看護師さんからは、「現代の医学であれば、ある程度の年齢でも産むことはできる。しかし、出産後の子育ては体力がいるから若いうちのほうがいい」と聞いています。

それはそうですね。ママとしては、おっぱいや夜泣きで寝るに寝られない状況もあるのですから、仕事よりもハードワークになります。その点、パパたちは寝たら、すぐそばで夜泣きをされても全く気がつかないそうです。

また、ママは近所に買い物で外出。子どもに泣かれておしめ変えが必要になった



パパですが、おしめを開くとなんとウンチで!で、あわててティッシュを挟み、おしめを閉じたという私の友人もいました。このようにてんやわんやの子育ては、取材してみると話が面白い、面白い。ママやグランマの底力、謙虚なパパの思いやりや男の愛情とでもいいたいでしょうか。お話の中からそんな一生懸命がひしひしと伝わり、この冊子を作ってよかったと心から思いました。

もう一つ。今回は、部会の中のグランマたちに手伝っていただきました。それは、冷静に振り返りができる年齢にあることや、ねばならないではなく、手抜きでいいのよ。と、あっさり言っていただけること。反面、これは注意しなくてはと、子育ての只中では気づかないことなどを教えていただけると思ったからです。その通りでした。

担当のメンバーは若々しく、かついい現役の働き手ですから、おばあちゃんというイメージからはほど遠い人ばかりなのでグランマとし、この冊子はゆるゆるとした内容ですから、読んだ人もゆるゆるとゆりかごに乗ったような気分になれたらいいなど名前をつけました。

会員企業の若い男子職員、女子職員のみなさま、孫がかわいく目に入れても痛くないじいじも、ばあばも目を通してください。そして、それなら私も一言とご意見があればバージョンアップに入れますので、その一言をお待ちしています。

女性活躍推進部会長 酒井 一江

目次(案)	
こころがけ	1
短いパパ、ママの時間を大切に	1
子どもに学んでパパ、ママになる	1
みんな、悩みながら子育てするのよ	2
お家時間がいっぱい	3
1. みんなでコミュニケーション	4
1-1 声掛けリーダーに	4
1-2 スマホをどう使いますか?	4
2. 暮らしを考えよう	7
2-1 衣-みてくれでなく、洗濯可能なものをセレクト	7
2-2 食-好き嫌いは親の責任?	7
2-3 住-生活美観は造園力を発揮	10
2-4 遊-子どもと一緒に遊ぶ	12
2-5 休-寝る時間	12
3. こんなときは?	14
4. 先輩パパ・ママから一言	25

グランマの目次 イラストも豊富

### 【造園用フルハーネス型墜落制止用器具の販売】

★日造協では、技術委員会安全部会を中心に労働安全衛生規則の改正に伴い造園作業に適したフルハーネス型墜落制止用器具を開発などを進めてきました。

この度、日造協安全部会の群馬庚申園(株)様から「造園用フルハーネス型墜落制止用器具」を会員の皆様へ特別価格で提供とのご案内がありました。

ご希望の方は URL (<http://shop.kousinen.com/>) よりお申し込みください。

## 樹林 (一社) 日本造園建設業協会 監事 (株)庭建 代表取締役 田雑 豪裕 これからの街づくりは造園から



「造園業者こそ、まちづくりの先頭に立つべき」という理念の元、現在、地元である長崎県佐世保市において、「Park-PFI」制度での公園再生計画が進んでいます。

「Park-PFI」とは公園整備にコスト意識の高い民間事業者の知恵を活用する制度のことで、4年前の都市公園法改正により新たに設けられました。

公園は高度経済成長を通じて日本各地に造られていきました。住宅不足解決のための効率の良い土地利用の促進や交通量の激増から、空き地や道路を失った子供たちのための「遊び場」確保が主な目的でした。旧軍用地が充てられることが多く、「戦争」に結びついた場所が、時を経て見事に「平和」な公園へと転換されていきました。

佐世保市は軍港として約130年間の歴史を歩んできました。現在432カ所の公園がありますが、旧軍用地が転用されたのは半分程度。横須賀市と比べかなり少ない転用率です。

貴重な事例の中で最も公園面積が大きい「名切地区・中央公園」は、戦災復興院告示により、特別都市計画公園として指定。しかし米軍提供施設として使用されていたため、整備は思うように進みませんでした。

1964年(昭和39年)以降、返還要求が活発化し、その5年後に返還。「米軍基地の固い殻を破った」といわれる、当地の公園整備において特別な出来事でした。

戦後の日本の発展を下支えしてきた公園も、年月が経ち老朽化が進んでいます。そこで「Park-PFI」制度が注目されています。

都市公園に飲食店等の収益施設と、公共施設を一体的に整備する民間事業者を公募で選定。収益で園路・広場等の公共部分の整備に充てる代わりに、事業者は、収益施設の設置期間を10年から最長20年に、建ぺい率を2%から12%にできるなどの特別措置が受けられる、という制度です。

「Park-PFI」の普及は大都市中心であり、地方都市での取り組みは進んでいません。自治体からの要求水準を理解し形にすることや人材・資金の調達と、高いハードルがあり、地元の中小企業がメインとなって取り組む例は少ないようです。

そんな現状の中、「名切地区・中央公園」の同制度での整備が決定、企画コンペの上、地元造園建設業者が代表企業となるグループが事業者として選定されました。

「まちづくりとはランドスケープデザインであり、地元の10年先、20年先のことを考えて構築していくのは造園業者の得意分野」との考えから、皆で協力して取り組んだ結果であり、現在、自治体から渡されたA4サイズ61枚にも及ぶ「要求水準書」と格闘しながら、令和4年4月開業を目指しているとのことです。

今後の公園には身近な自然との触れ合いやコミュニティ再生の場としての社会的機能が求められます。「人と街と自然をつなぐ」新しいライフスタイルを創造するためには、造園業者が地元のまちづくりの先頭に立つべきだと考えます。我々業界として、今後造園建設業の確たる未来を築くためにも、この「Park-PFI」に取り組むべきではないでしょうか。

## 労働災害防止強調月間のお知らせ

令和3年3月1日～31日

建設業年度末労働災害防止強調月間は、完工時期を迎える工事が増加し、さまざまな作業が輻輳するこの年度末に注意を促し、無事故・無災害で新年度を迎えていただくことを目的に、建設業労働災害防止協会の主唱、厚生労働省、国土交通省の後援で実施されます。

強調月間では、墜落・転落災害の防止などの事項を参考に現場の実情に即した安全衛生実施計画の作成と労働災害防止活動を実施することとしています。

なお、本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、いわゆる「3つの密」を避けた取り組みも求められています。



# 東日本大震災から10年 現在の復興状況について

令和3年3月11日に「東日本大震災」の発生から10年を迎えます。被災地は現在どのような状況なのか、東北3県からご報告をいただきました。

## 岩手 国直轄事業ほぼ完成 県、市町村は地域差

令和3年3月11日で10年目の節目を迎えます。岩手県支部として、震災発生後から今でも日造協及び関連団体等に多大なご支援をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

3月18日には「東日本大震災対策支援本部」を設置、その後「復興支援本部」へ移行してからも、多くの支援活動をいただいております。

また、平成27年6月には、被害の大きい福島、宮城、岩手の3県の復興支援を強化するために「現地本部」を設置していただき、本部、総支部、支部の情報伝達がスムーズで、国交省や他の行政機関と良好な関係になっております。

これまで、日造協ニュース、造園技術フォーラム、総支部長等会議で発表、報告をしてきましたが、岩手県支部は少人数でできなかったことが多くあり、その一つが「防災協定」です。

国、県、市町村、他団体との協定を「締結」しておくことが災害対応において一番重要であると話してまいりました。

今、日造協としても、総支部、支部で進めておりますが、対応できない支部もあると思われるため、本部で先進支部の実例等の発信をしていただき、日造協として災害対応が仕事であり、地域貢献であることを示していただけたらと存じます。

平成28年4月14日に発生した「熊

本地震」で日造協は、本部、総支部、支部の対応が早く、「復興支援本部」「現地本部」を設置して支援活動をしています。その他に、台風、大雨、洪水等、自然災害が多発する10年でした。

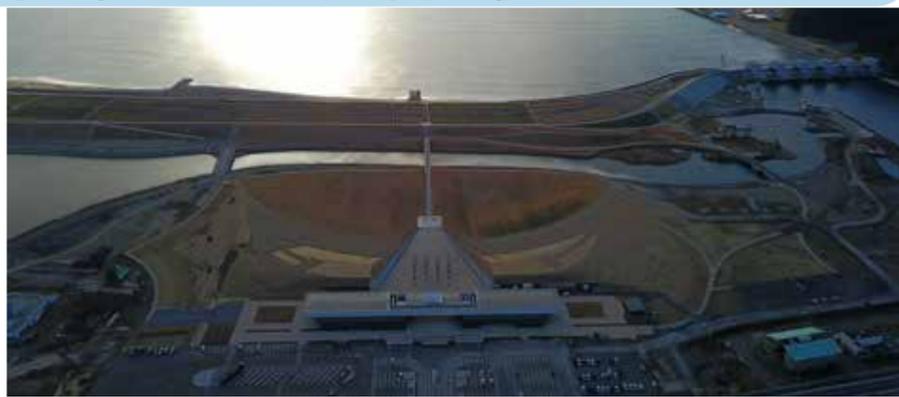
岩手県支部として、これらを整理し、まとめているところであり、今後に生かせる資料となればと取り組んでいます。

大震災後、国は復興庁を設置し、東日本大震災復興特別予算を数十兆円規模で組み、国家プロジェクトとして10年で復旧・復興を完成させる目標で、復興道路、港湾整備等、直轄事業として進めてきました。岩手県でも、3月には直轄工事の大部分は完成予定で、造園工事も国の直轄事業として約30億円の予算で、「高田松原津波復興祈念公園」を整備中です。

昨年9月には、祈念公園内の「津波伝承館」「道の駅高田松原」の完成、「国営追悼・祈念施設」の一部開園の式典を行い、記念植樹として支部で管理してきた一本松の後継樹3本を、高円宮久子様、大臣、知事、市長、地元小学生が植樹し、里帰りさせることができました。

市民の皆様をはじめ、多くの人の「希望の松」として成長を見守り、2年後に復興祈念公園で行われる全国植樹祭において、残りの後継樹を里帰りさせたいと思っています。

また、造園工事として、これまでに2



令和3年1月 高田松原津波復興祈念公園 3月開園



平成23年4月22日 一本松保護活動開始

度発注があり、どちらも当支部会員が受注し、会員と協力して施工しており、3月に全面開園の予定です。

県、市町村は、地域によって大きな差があり、宮古市より以南は、震災後、台風10号及び大雨の水害で、まだ、数年復旧・復興に掛かる見込みです。

造園工事においても、陸前高田市の高田松原だけで、約120haの都市公園の決定であり、国直轄の10haが完成予定、県発注の約44ha(約15億円)は県内の土木A級業者が受注し、当支部会員

が下請けとして施工していますが、大きく遅れている状態です。市関係は、ほぼ地元土木業者に発注していますが、まだ、数年掛かる見通しとなっています。

最後に、震災から10年の節目に当たり、新たな気持ちで復興に向け取り組み、新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底を行いながら、支部活動を進めていきます。これまで全国の会員の方々から援助と励ましの声を掛けていただき、厚く御礼申し上げます。

岩手県支部長 米内 吉榮

## 女性の採用・活用についての調査

女性活躍推進部会長 酒井 一江

### 女性の定着促進に向けた建設産業行動計画がスタート

会員企業のみならず、平素より女性活躍推進部会からのお願いに多大なご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、平成28年「女性活躍推進法」の施行後、国土交通省が推進する5年を期とした計画により建設産業女性活躍全国ネットワークが構築され、当部会も参入して、活動の一翼を担っています。

令和2年1月には新計画である「女性の定着促進に向けた建設産業行動計画」の認知度100%を目指して新たな5カ年のスタートを切りました。

### 女性の採用・活用についての調査の報告

当部会では、現状把握のため「女性の採用・活用についての調査」を実施いたしました。アンケート調査の結果は、332社から回答をいただき、回答率は38%でした。ご協力ありがとうございました。今回は回答のあった332社を

会員数と回答率

	会員数	回答数	回答割合
北海道	34	13	38%
東北	104	40	38%
関東・甲信	253	96	42%
北陸	55	23	55%
中部	38	21	55%
近畿	111	43	39%
中国	45	18	40%
四国	62	21	34%
九州	144	50	35%
沖縄	24	6	25%
記述なし		1	
計	870	332	38%

主体に、結果のご報告をいたします。

まず、2014年以降の女性の採用状況は、「毎年採用」5%、「随時採用」が63%であり、68%が採用しているという結果を得ましたが、32%は「採用していない」という回答でした。採用している企業の定着状況は、「定着している」が49%、「ほぼ定着している」が40%であり、採用した場合は89%の高い定着率です。

さらにその採用効果は、個人面では技術、技能に関する能力が高い場合と、パーソナリティと思われる女性目線での仕事対応や雰囲気づくりが優れているという2点に絞られ、どちらもほぼ同数の結果を得ました。会社への寄与度については「社内が明るくなった」という表現に代表され、今の時代に合わせた取組みに改善でき、従来環境を見直すきっかけになった状況や、企業のイメージアップになっているようです。

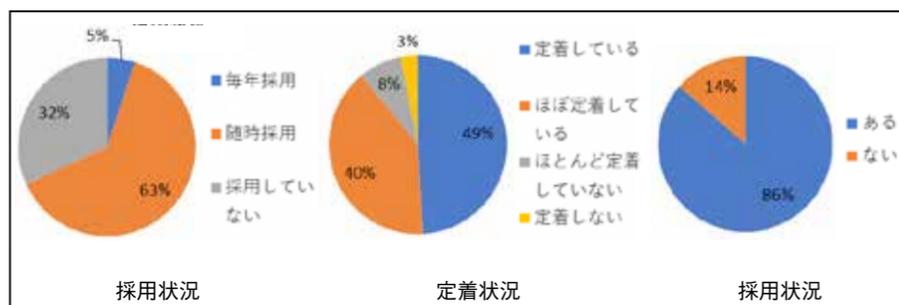
課題については「仕事と育児・介護の両立」が最も多く29%、次いで、「男性の意識改革」「産休や育児制度の導入」が10%。次が「上司や同僚の意識改革」

えるぼし認定・くるみん認定

えるぼし認定は、女性の活躍推進に関する取組の実施状況等が優良な事業主が申請を行うことにより、厚生労働大臣の認定を受けることができる。



くるみん認定は、子育ての取り組みの実施状況が優良な事業主が、必要書類を添えて申請を行うことにより、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受けることができる。



「時短勤務やフレックス制度の導入」が9%占め、この結果から女性とともに仕事に取り組む意識と対応力がなければ、スムーズな制度活用にならないという状況を窺うことができました。

そして、コロナ禍で密を避けるリモートワークが加速しましたが、アンケートでは2%と最も低い値でした。デジタル化をしている会社と必要としない会社には大きな差があるようです。

また、女性を採用しようにも人がこないということや、ハローワークの求人手法の課題があげられていました。女性が造園業の仕事を十分理解して入職して欲しいという課題も上がっていました。女性職員登用の職務については、内業、外業はほぼ半々で、適材適所ということでしょう。地域差ではなく、企業差を感じたアンケートでした。

### まとめ

アンケートをまとめると、意識改革として、①男性は、男女協働で仕事をする場合、性差を踏まえ、お互いが能力を発揮できることを意識して役割分担を。②女性は、体力不足などをどのような独自の能力でカバーできるか、甘えることなく仕事を認識すること。③経営者は、会社の方向性を見極め、方向に合った雇用と能力支援及び適材適所の配置を考え、

自社のハード、ソフトの両面から経営計画を整備する。

さらに業界としての課題は、社会では造園事業の中に女性の職場としての意識が低く、求人しても反応が鈍いことから、業界をアピール(教育面、リクルート面)する努力が必要である。同時に経営者は時間の活用を再考するなど生活に関する支援も必要である。仕事は男女平等とはいえ、育児、介護等生活面では女性主体という認識が強く、業界全体の意識がそこにあるうちは、女性への時間的配慮は必要である。仕事の体力差とともに、生活の作業分担の差も受け止める必要がある。

以上が今回の結論です。

まだ多くの課題を抱える業界ですが、昨年、造園建設業では珍しく箱根植木(株)、新松戸造園が「3星のえるぼし認定」を受けました。「えるぼし認定」、「くるみん認定」は業界のイメージアップと女性の求職につながります。

多くの企業が認定を受け、造園建設業が女性にとってライフワークバランスの優れた魅力的な職業となるようアピールしていただくことを期待します。

なお、報告書は日造協メールニュース(<http://www.jalc.or.jp/news/2021020103.pdf>)、会員サイトに掲載しています。

## 宮城 ほぼ復興完了 2年後の緑化フェア目指す

### ● 10年を振り返る

平成23年3月11日(金)14時46分、マグニチュード9.0の地震が三陸沖で発生、その30分後、高さ7.2～34.7mの津波が押し寄せ、南三陸町・女川町を中心に、過去にない大きな被害をもたらした。宮城県では、死者10,567人、行方不明者1,281人、住宅の全壊83,005棟、半壊155,130棟、一部損壊224,202棟、床下浸水7,796棟、被害総額は約9兆968億円に及びました。

### ● 宮城の復興計画

平成23年からの10年間を「復旧期」「再生期」「発展期」の3期に区分し整備が進められ、21の市町においても震災復興計画を策定し、災害に強いまちづ

くりを目指してきました。特に、沿岸部の市町では、住宅地の高台移転や防潮堤の整備など多重防御等による大津波対策を計画し、整備を行ってきました。

### ● 復旧・復興（道路・鉄道）

道路施設をはじめ、鉄道の運行再開に向けてインフラの整備が進められ、利用者や沿線住民に安全で円滑な交通確保が図られるよう既存の位置から内陸側に道路や鉄道が整備され、移設困難なエリアについては橋脚区間を作り、被害（津波）を最小限に抑える取り組みが行われてきました。

### ● 復旧・復興（まちづくり事業）

防災集団移転（195地区）、土地区画整理（35地区）、津波復興拠点整備（12

地区）の各事業が行われ、進捗率はほぼ100%となりました。

### ● 施設復旧（土木・公園・緑地整備事業）

橋梁、海岸保全、港湾、下水道、公園（復旧7・新設）等の整備が行われ、海岸保全施設（78%）と港湾施設（91%）を除きほぼ完成しました。

公園施設については、「石巻南浜津波復興祈念公園」（約40ha）が東日本大震災からの復興のシンボルとして位置づけられ、令和3年3月28日（日）の開園に向け、地元県造協の会員企業をはじめ、日造協宮城県支部の会員企業が整備に携わっています。

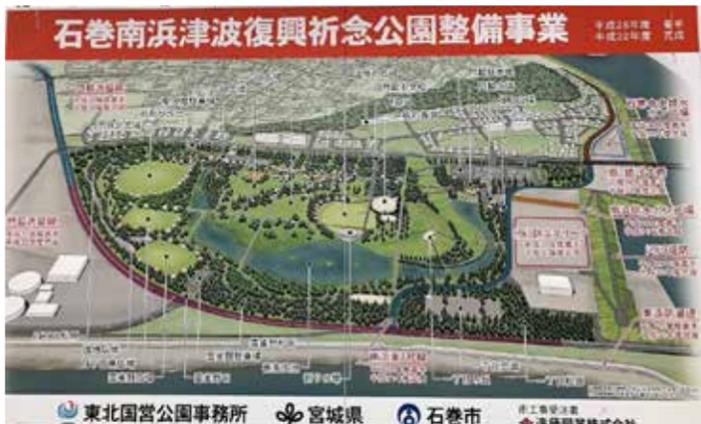
### ● これから

昨年12月、国土交通大臣から認可を受け、令和5年に「全国都市緑化仙台フェア」の開催が決定しました。

都市緑化フェア開催時には、被災時にいただいたご支援への感謝とともに、みどりを活かしながら市民が一体となって取り組んできた復興のあゆみ、そして防災力の高いまちづくりを国内外に発信し、宮城県のみならず、岩手県・福島県、そして東北全体が連携して災害に強い地域づくりを進めることができれば、それぞれの地域がもっと安全で住みよい町になっていくと思います。

東日本大震災からもうすぐ丸10年、これまでに寄せられました復旧・復興ボランティア、宮城県・市町村に対する人的ご支援、義援金、寄付金など、多大なるご支援をいただきました皆様に厚く御礼と感謝を申し上げます。

宮城県支部長 古積 昇



復興祈念公園計画看板



復興祈念公園上空から



海岸堤防・かさ上げ道路

## 福島 復旧は進捗 復興祈念公園は昨年 第一弾発注

福島県は「会津地方」「中通り」「浜通り」の三地方があり、主にその「浜通り」地方について焦点をあてて記します。

未曾有の東日本大震災。大地震、大津波の被害に留まらず、目に見えない恐怖の放射性物質が地域を襲いました。東電福島第一原発の爆発事故です。

この事故が復興を妨げたことは言うまでもありません。復旧に取り掛かれたのは、汚染濃度により違い、半年後、1年後、2年後…となりました。現在かなり進捗したとはいえ10年が経とうとしている今でも帰還困難区域があります。その間、福島の農産物、観光地の風評被害は拡大し、その払拭に大変な努力が続いています。

一方で、震災、爆発事故の風化が進み、今、全国の人、あの被災、恐怖の意識を持っているのでしょうか。発生から10年となる復興状況を記すに当たり、このことを心に留めていただきたいのです。

災害復旧は、誰も経験したことのない「除染」作業に多くの労力が費やされ、

10年目にして相当の進捗を見えています。「人の出入りができる所」はほぼ終わり、今は、各地域に散在している汚染土の仮置場から中間貯蔵施設への運搬で大型ダンプが忙しく行き交っています。

安全と美観を備えた白砂青松の再現を夢み、主にクロマツ苗を植える海岸防災林事業も順調に進み、海岸線の復旧は約8割の状況で、同時に防災緑地としての公園も新設され、多くの造園業者が精を出し復興を後押ししています。



令和2年10月復興祈念公園のごく一部（手前、芝生広場、駐車場部植栽）が開園し、芝生広場から写真上半分海までは造成中（土木工事）



海岸防災林 抵抗性クロマツ苗植栽、防風柵、静砂垣設置

また、復興祈念公園については、大きく出遅れましたが、9年目の昨年、やっと第一弾の発注があり、国交省の資料を一部抜粋すると「…東日本大震災の犠牲者の追悼、鎮魂、震災の記憶と教訓の後世への伝承、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信」といった公園の目的をふまえ「生命をいたみ、事実をつたえ、縁をつなぎ、息吹よみがえるという公園の基本理念を具現化することが求められる…」とあり、昨年一部ですが開園にこぎつけたことは喜ばしいことです。工事は緒についたばかりです。

こうした中で廃炉、ロボット、エネル

ギー、農水産等の分野で具現化を進め、産業集積や人材育成、交流人口の拡大に取り組む福島県イノベーションコースト構想を浜通りが一体化し推し進めています。

新担い手三法が公布され、働き方改革を推し進めるためにも、効率化を図り、生産性の向上に取り組む必要の中、このコロナ禍です。コロナが復興の妨げにならないようwithコロナは、ソーシャルディスタンスと共に緑には密着したwithグリーンで復興に取り組みます。「緑の再生なくして福島の復興に終わりはない」で福島県支部は新年を頑張ってます。福島県支部長 諸井 道雄

### 学会の目・眼・芽 第114回

## コロナ禍と造園界

(公社) 日本造園学会理事・会長 京都大学大学院地球環境学堂 柴田 昌三

先日、建設系7学会会長懇談会がオンラインで開催された。昨年度とは異なり、コロナによって社会が激変する中で、我々はいかに対応していくべきかが大きな話題となった。

そこで改めて注目された話題の一つに公園や緑の存在がある。コロナ禍以降、建設や土木などの分野が創出する空間の中で、公園の重要性が改めてクローズアップされはじめていることを感じさせる状況がある。



また、日本造園学会は日本農学会のメンバーでもある。50を超える学会の集合体であり、そこでは、農学に関

係するさまざまな学会が数多くの視点から研究を行っている。

その日本農学会において来年度に計画されているシンポジウムのキーワードもコロナである。そこで日本造園学会が演じることのできる役割は緑地そのものの計画や緑がもたらす癒しの効果などであり、数多いメンバー学会の中でも本学会がこの話題に関与できる数少ない学会である。



都市域や中山間地域を問わず存在するさまざまな緑地や自然は、造園に携わる集団がデザイン、計画、材料提供、維持管理等の観点から総合的にかかわ

ることのできる空間である。コロナ禍の中で、人々は癒しを求めて緑地に出て行った。そこで人々が求めたのは、緑に囲まれた開放的な空間である。

公園の歴史を考えると、公園に求められる存在価値は、単純に憩える空間、遊ぶ空間や緑の空間があった。この根源的な人間の欲求を世界中の人々は2020年に改めて知ることとなった。

造園界の方々はそれを実現できる技術と知見を持っている。表面的なことではなく、人間が本能を取り戻せる空間を提供することを目指した緑地管理を私たちは考えていかなければならない。



日本造園学会では現在タスクフォースを設置し、学術のみならず、造園界

が培ってきた経験を統合できる関係性を再構築することを議論している。その中では、2019年に発足した社会連携委員会を中心にして、国内の多様な人々の関係の統合的発展、国際的な関係のさらなる推進、防災に関する対応、をそれぞれ検討し、関係性を深めていくことを考えている。

社会の緑に対する根源的な欲求が明らかになった令和時代は、学・官・民といわず、業も中心となって造園界を盛り上げていく時代である。枠組みにとらわれない、境界を越えた協力体制の構築は喫緊の社会の要求ではないだろうか。

そのことを肝に銘じて、私たちは新たな時代に立ち向かっていかなければならない。

ふるさと自慢 高知県 高知の魅力詰め込んだビールと 伝統の碁石茶、土佐の大抜茶

今回は私のふるさと高知の隠れたオスメを紹介したいと思う。みなさんIPAって聞いたことがあるだろうか。アルコール度数高めですが苦みが強いが芳醇なホップの香りと味が楽しめる最近人気のクラフトビールだ。

筆者の地元、香美市にこのIPAの醸造所である高知カンパニーブルワリーがある。ここで作られるTOSACO(トサコ)は地産の食材にこだわっており、高知県産のゆず、日高村のフルーツトマト、本山町の赤しそ、四万十のぶしゅかん、本山町(嶺北)の土佐天空米、カヤの木の実をハーブのように使ったものなど、高知県の魅力をあますことなく詰め込んだラインナップだ。今はコロナ禍で酒の席は懸念があるが、代表の瀬戸口さんがビー



天空の郷 こめホワイトエール



ゆずパールエール

TOSACOの苦手な妻のために作ったというだけあって、フルーティーで女性の方にも飲みやすい。ぜひ、家で家族と楽しんでみてもらいたい。

続いて、高知はお酒だけでなくおいしいお茶の産地でもあることをご存知だろうか。日本で唯一の伝統製法で作られる大豊町の碁石茶は、江戸時代から続く製法を守る数少ない発酵茶の1つで、爽やかな酸味



復活の大抜茶



大抜茶の茶畑



大抜茶、昔ながらの釜炒りの様子

と苦味が清涼感あふれる後味に変わっていく幻の茶と言われるお茶だ。

そして昨年は土佐三大銘茶の1つである大抜茶が有志によって復活した。大抜茶はかつて土佐藩の歴代藩主も愛したと伝わるこちらも幻の逸品だ。おいしい酒の後に土佐の銘茶はいかがだろうか。お茶は産地の湧水で淹れるのが一番おいしいが、水道水だと味が変わることが

あるので出来ればミネラルウォーターで淹れてほしい。

田村 嘉平 (有)高知ガーデン土木

事務局の動き

- 1月
14(木) 登録造園基幹技能者講習(仙台) ~1/15
23(土) 第47回全国造園デザインコンクール予備審査会
24(日) 第47回全国造園デザインコンクール審査会
25(月) 登録造園基幹技能者講習(東京) ~1/26
26(火) 造園フェスティバル推進部会【web】
2月
1(月) 財政・運営部会【web】
2(火) 広報活動部会【web】
4(木) 運営会議【web】
10(火) 登録造園基幹技能者講習委員会(試験委員会)
14(日) 第47回全国造園デザインコンクール表彰式【一部web】
15(月) 登録造園基幹技能者講習委員会
19(金) 技能グランプリ(愛知) ~2/21
22(月) 女性活躍推進部会【web】
25(木) 技術委員会【web】
第3回造園施工管理技術検定委員会
3月
3(水) 事業委員会【web】
12(金) 街路樹剪定士指導員研修会(九州) ~3/13
16(火) 財政・運営部会
17(水) 運営会議
資格制度委員会
建専連理事会
22(月) 街路樹剪定士認定委員会
23(火) 日本花普及センター(第2回理事会)

- 24(水) 建設業適正取引推進機構(評議員会)
25(木) 総支部長等会議(中止)
第2回通常理事会(書面決議)

委員会等の活動

- 広報活動部会【Web】
12/1 日造協ニュース12~4月号の内容等について審議
●全国造園デザインコンクール等推進部会【web】
12/2 第47回全国造園デザインコンクール審査会等の運営方法について審議
●資格制度委員会とUR都市機構との意見交換
12/15 URと資格制度について意見交換
●技術委員会(人材育成部会)映像講義の収録
12/17~18 WEB開催予定の講義を収録
●街路樹剪定士認定委員会【Web】
12/23 10月~11月実施分の合否判定について審議
●地域リーダーズ会議【web】
1/12 勉強会(2月愛知会場)の開催について審議
●登録造園基幹技能者講習(仙台)
1/14~15 戦災復興記念館にて開催(34名受講)
●全国造園デザインコンクール等推進部会(神奈川県立相原高等学校)
1/23~24 応募作品の予備審査・本審査を実施
●登録造園基幹技能者講習(東京)
1/25~26 東京都立産業貿易センター 浜松町館にて開催(56名受講)

編集後記 再度の緊急事態宣言、手帳を見ると今年の2月を最後にリアルな広報活動部会は行われておらず、本郷の街にも足を運んでいません。部会後にいつも立ち寄っていたあの店はどうなったのか、いつものように寄り道が出る日まで何とか続けてほしいものです。

「草木染をしてみたい。」その存在を知ってから、なんとなく抱いていた願いが叶い、実現してみると、予想しなかった面白さに出会いました。

まず草木染とは何かということですが、化学染料ではなく、身近な草木を染料として、布を染めることかと思えます。草木染の方法ですが、調べると様々あり、布や染料、時期や使い方、地方でも様々なようでした。相手が自然だからでしょうか、方法がひとつではないということも、とても面白いと思えました。

さて、初めてということで、わからないなりに情報を集め、準備をし、当日がきました。晴れた朝、山小屋に集合し、さわやかな空気の中、まずは材料集めです。山小屋周辺にて、なんとなく染まりそうなもの、めどをつけていたものを集めます。小屋に戻り早速、染料づくり、媒染...と進めていきましたが、面白い!色がつきます。しかも予想とは違う色に、です。また、媒染液の違いが色にもしっかり出ました。大変興味深いです。

実は事前に一度家の近くに生えていたオシロイバナで軽く試してみました。煮れば何かしら緑色か茶色くらいはつくのではないかと簡単に考えていたのですが、甘い期待でした。まったく染まらない、よく言えば生成り色に



絞りを入れる様子 染まった様子 絞りを切る様子
絞りを入れる様子
染まったというレベルです。この予想しなかった失敗が次への面白さにつながりました。今回はもう少しよく調べ、布の下処理をしっかりとし、媒染液も丁寧に作りました。その成果もあり、今回はなんとか色がつきました。しかし、本に載っているような色ではありません。頭のなかで予想している色とも違います。やはり、同じ草木でもその個体が育った環境、採る時期、布の状態など様々な条件によって出来上がりが変わってくるようです。

草木染は、自然を相手にするため、染めの材料としては安定したものではありません。それは移ろい、いつも違い、同じものは手に入りません。でも、だからこそ予想を裏切られる、自分の中にはないものが出来上がる感動がありました。

また、季節、草、媒染、布を変え、いろいろと試し、遊んでみたいと思います。

Advertisement for Husqvarna Automower 550. Features include: 1 or 2 or 3 mowings with 1 boundary wire, up to 15,000sqm area, automatic maintenance. Price: 589,000 yen (tax included). Includes a QR code to watch a video on YouTube.